

1 調査名称：札幌市総合都市交通体系調査

2 調査主体：札幌市

3 調査圏域：札幌市管内

4 調査期間：平成 23 年度～令和 4 年度

5 調査概要：

札幌市では、少子高齢化の急速な進展などの社会情勢の変化や低炭素社会の実現といった課題などを踏まえ、あるべき将来都市像を実現するため、20 年先を見据えた将来交通に対する基本的な考え方と、概ね 10 年間の短・中期計画となる交通戦略を取りまとめた札幌市総合交通計画を平成 23 年度に策定した。

札幌市総合交通計画は、札幌市を取り巻く様々な課題に対応した将来交通計画であるとともに、より効果的・効率的に事業展開が図れるよう、各種交通施策・事業を体系化した総合的な都市交通計画であり、札幌市の交通に関する個別計画等を策定・実施する上での指針になるものである。

なお、札幌市総合交通計画は、社会経済情勢の変化や上位計画の策定状況を踏まえ、令和元年度に計画改定を行った。この、札幌市総合交通計画で取りまとめた交通戦略に基づき、「札幌駅交流拠点基盤整備の検討」・「真駒内駅前地区の交通結節機能強化の検討」に関する調査・検討を行う。

I 調査概要

1 調査名称：札幌市総合都市交通体系調査

2 報告書目次

(1) 令和4年度札幌駅周辺交通円滑化検討業務

第1編 業務概要

第2編 東改札口交通広場整備に係る既存施設への影響の検討

第3編 北5西1・西2地区の施工期間中の仮設バス乗降所に係る検討

第4編 「札幌駅交通ターミナル検討会」等の資料整理の補助

第5編 説明資料の作成

(2) 令和4年度札幌駅交流拠点基盤整備検討業務

第1編 業務概要

第2編 計画準備

第3編 札幌駅南口広場再整備に係る検討

第4編 札幌駅北口広場の復旧方法の検討

第5編 説明資料の作成

(3) 令和4年度真駒内駅前地区交通結節機能強化検討業務

第1章 業務の概要

第2章 駅周辺道路の計画検討

第3章 まとめ

3 調査体制

委員会・幹事会等は設置していない。

4 委員会名簿等

委員会・幹事会等は設置していない。

II 調査成果

(1) 令和4年度札幌駅周辺交通円滑化検討業務

1 調査目的

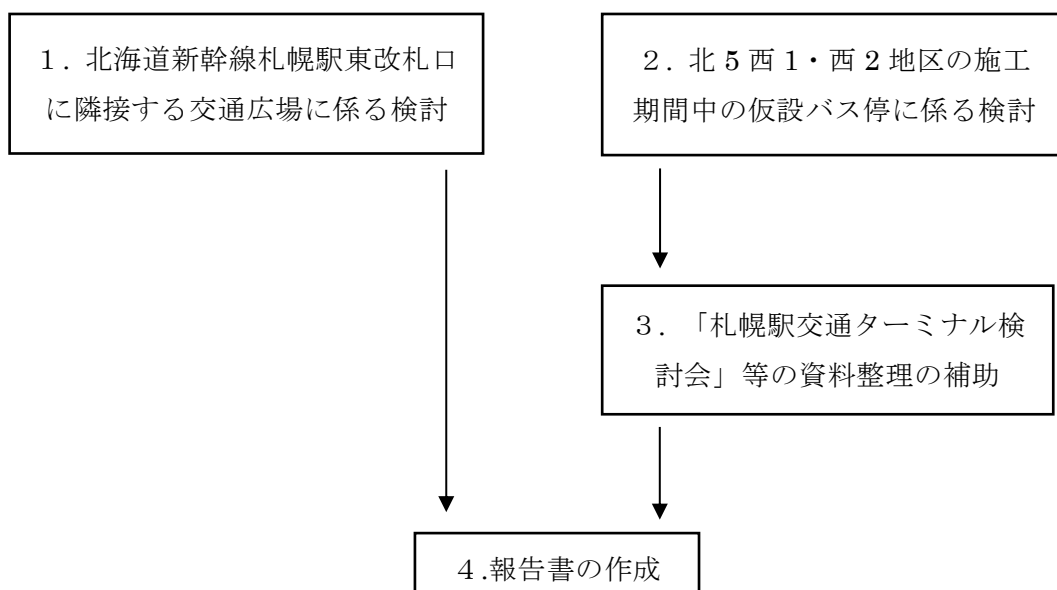
札幌駅交流拠点は、平成28年5月に策定した「第2次都心まちづくり計画」において、まちづくりの骨格構造として位置付けられた交流拠点のひとつであり、また道内最大の交通結節点であることから、北海道札幌の国際競争力をけん引し、その活力を展開させる起点を形成して道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能の強化が求められている。

平成30年3月には北海道新幹線札幌駅のホーム位置が決定したことを受け、同年9月に札幌駅交流拠点のまちづくりの新たな指針として「札幌駅交流拠点まちづくり計画」を策定している。

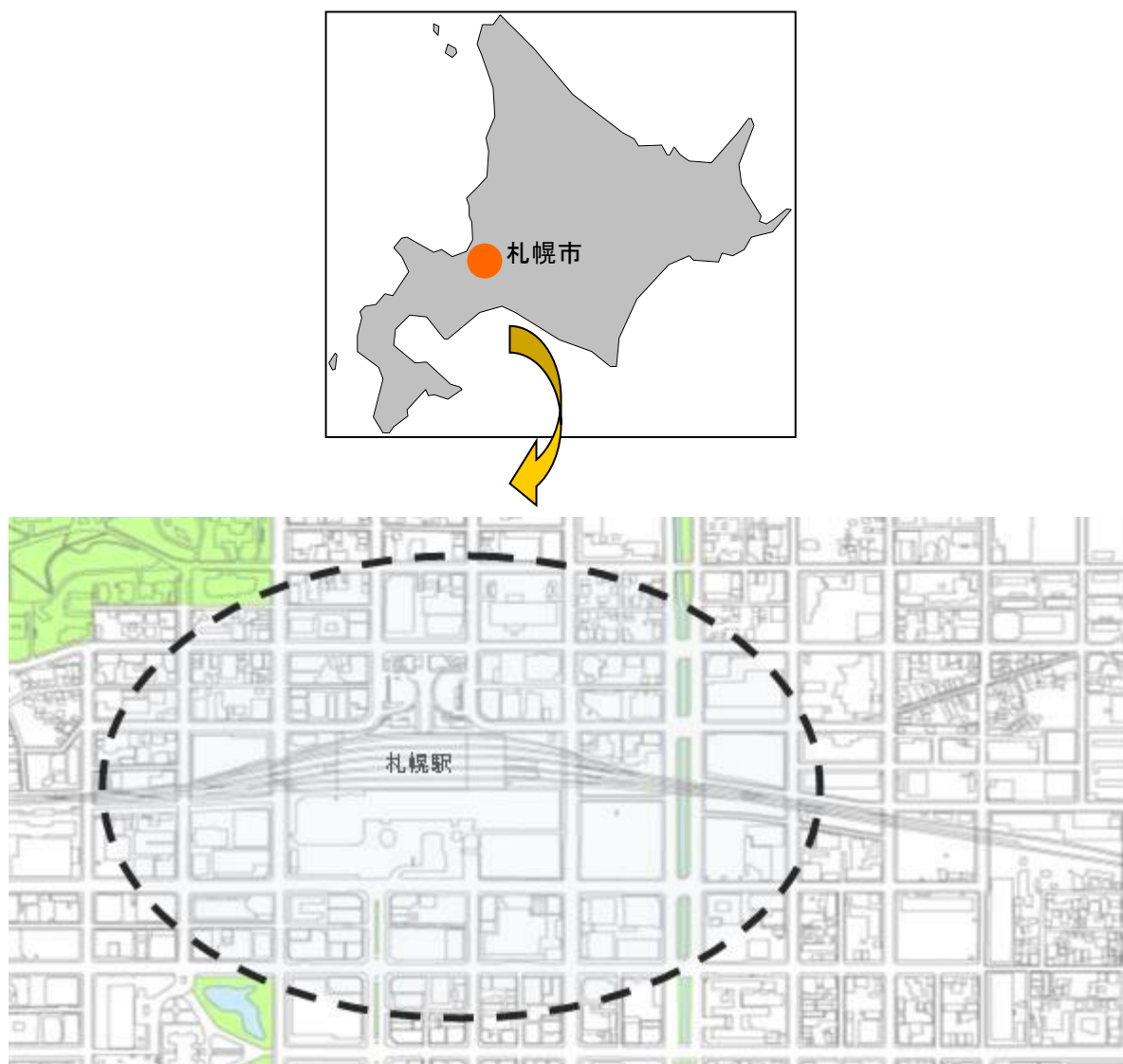
令和元年10月には、北5西1・西2街区の再開発を推進するため「札幌駅交流拠点北5西1・西2地区再開発基本構想」が策定され、開発コンセプトの視点のひとつである基盤整備において「多様な交流を支えにぎわいを形成する交通結節機能の充実とバリアフリー化の推進」を掲げている。同年11月には、地権者5者で構成される「北5西1・西2地区市街地再開発準備組合」が設立され、官民協働で再開発の具体化に向けた検討が進められている。

本業務は、これまでの検討成果や周辺街区の再開発等の検討状況を踏まえ、将来の札幌駅周辺の交通の円滑化に向けた検討を行う。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

本調査成果は、市内部における検討に関する情報であり、公にすることにより、市民の間に著しい混乱を生じさせ、又は、特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすと認められるため、非公開。

(2) 令和4年度札幌駅交流拠点基盤整備検討業務

1 調査目的

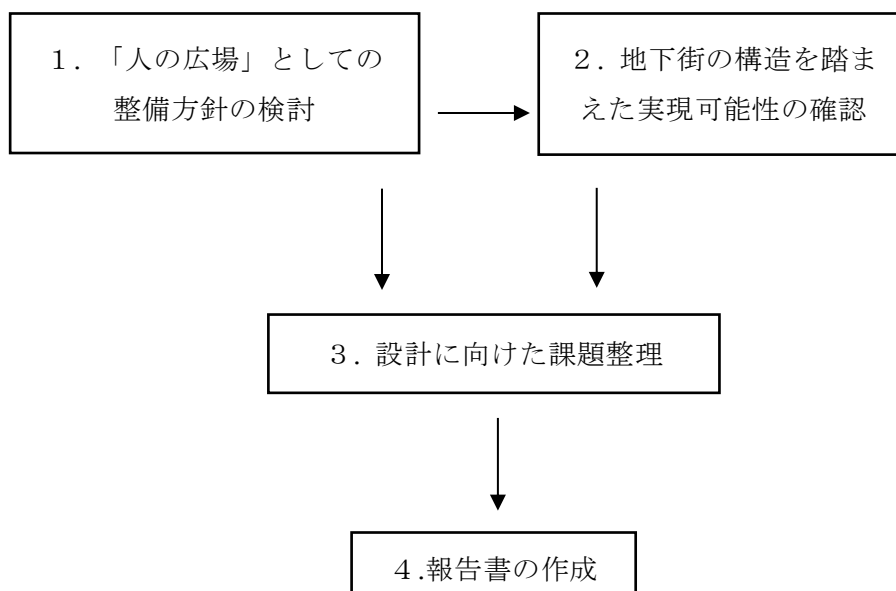
札幌駅交流拠点は、平成28年5月に策定した「第2次都心まちづくり計画」において、まちづくりの骨格構造として位置付けられた交流拠点のひとつであり、また道内最大の交通結節点であることから、北海道札幌の国際競争力をけん引し、その活力を展開させる起点を形成して道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能の強化が求められている。

令和2年度には、札幌駅南口周辺エリアにおける街区間連携検討業務を行い、「人の広場」としての南口駅前広場の整備の基本的な考え方の検討を行ってきたが、周辺開発を見据えた配置計画や再整備による地下街への影響等については今後検討を進めていく必要がある。

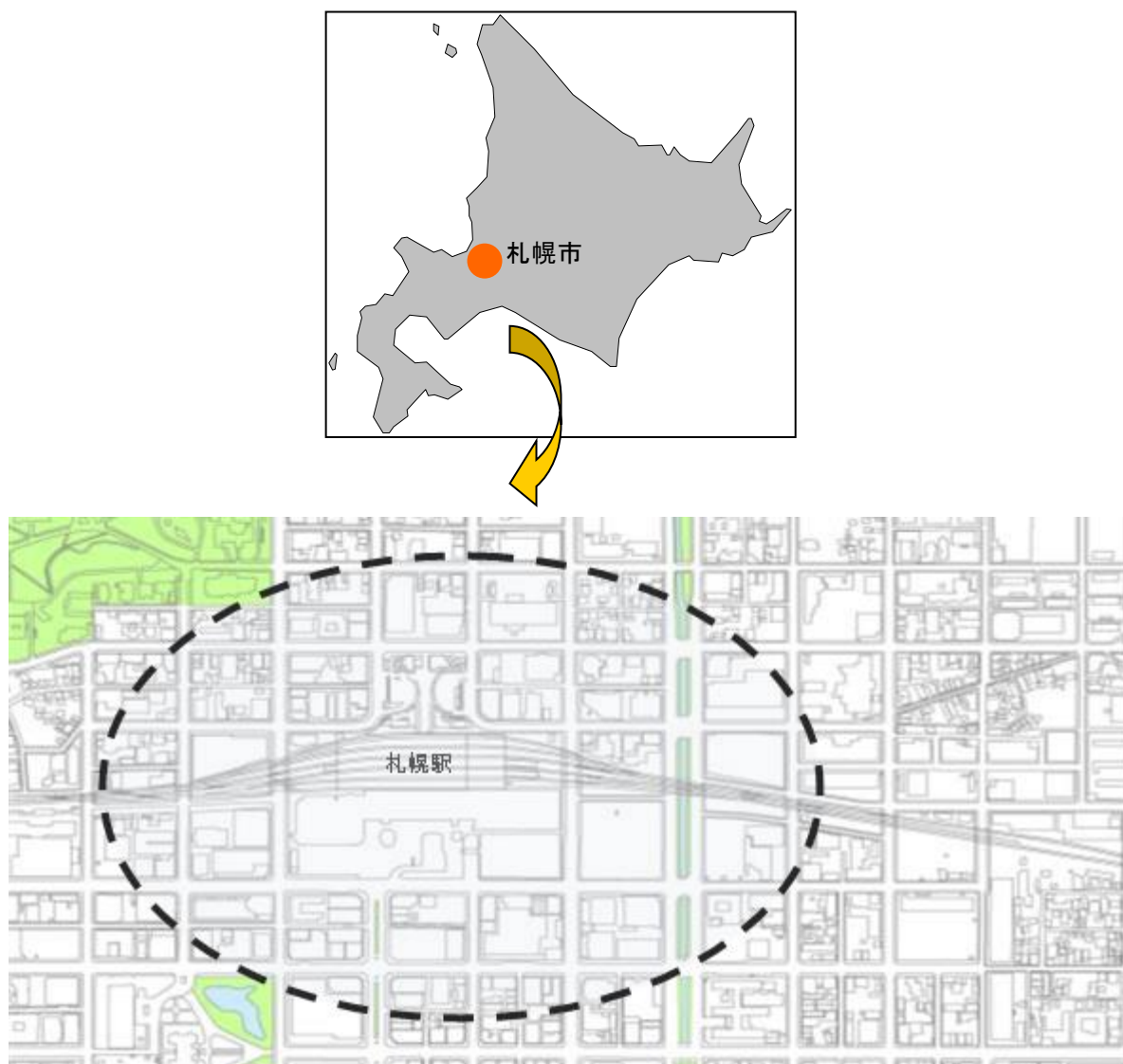
また、北口広場においては、北海道新幹線札幌延伸に伴い札幌駅構内北側歩行者通路が閉鎖されることを受け、代替歩行者動線としての機能確保が求められている。

本業務では、タクシープール機能と駅前広場の再配置が共存可能な方法の実現に向け、地下街の構造を踏まえた検討を行う。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

本調査成果は、市内部における検討に関する情報であり、公にすることにより、市民の間に著しい混乱を生じさせ、又は、特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすと認められるため、非公開。

(3) 令和4年度真駒内駅前地区交通結節機能強化検討業務

1 調査目的

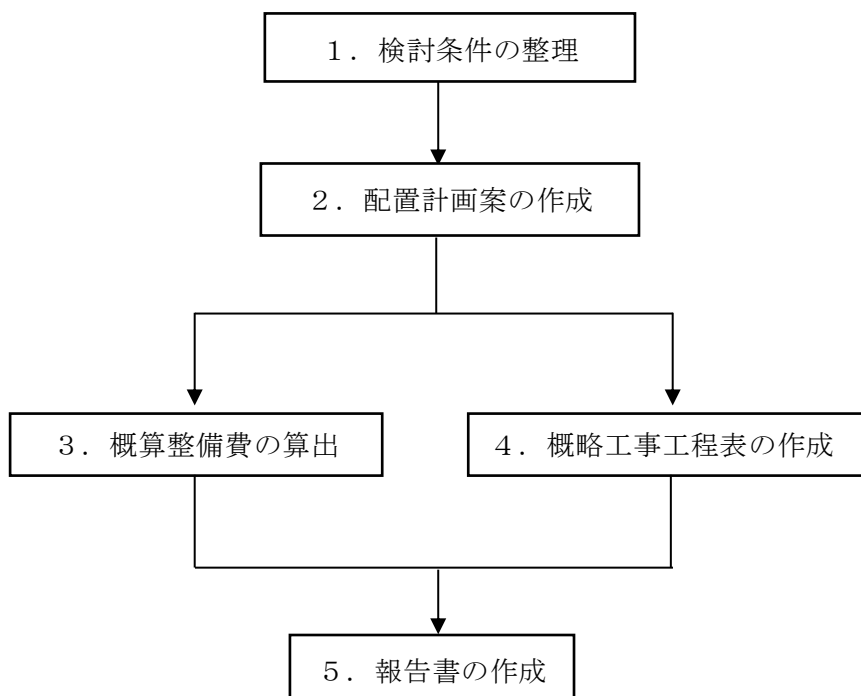
札幌市では、真駒内駅前地区の土地利用や配置する機能を決定する「真駒内駅前地区まちづくり計画」を策定することとしている。

現在、策定検討中のまちづくり計画案では、官民連携によるまちづくりにより、駅前に人や公共交通が主体となる歩行者空間を確保し、公共交通の乗継利便性向上を実現するために、駅前の街区を一体化するとともに、バスやタクシーの乗り場を集約した交通広場を設けることとしている。

一方で、現状で真駒内駅前の平岸通を利用する自動車交通は約8,700台/日あり、真駒内駅前のバス発着場を発着するバスは約800便/日あることから、駅前街区整備後にこれらの交通を円滑に処理するためには、交通量等に対応した最適な交差点形状や車線運用などの交通処理方策が必要である。

本業務では、これまでのまちづくり計画策定検討の経緯を踏まえ、駅周辺道路の配置計画の検討、概算事業費の算出、概略工事工程の作成を行う。

2 調査フロー



3 調査圏域図

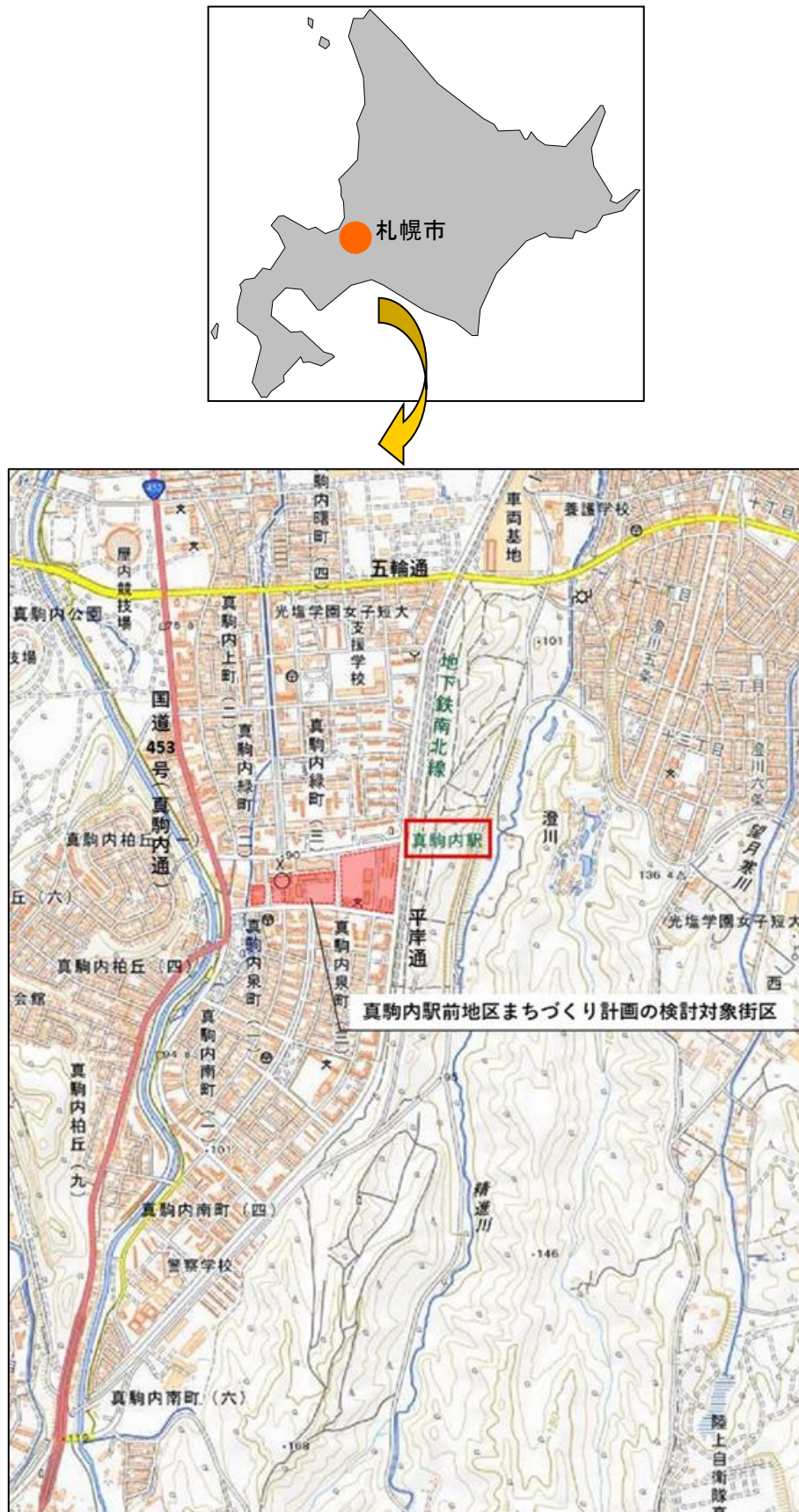


図 調査圏域図

(様式－ 3 b 調査成果)

4 調査成果

本調査成果は、市内部における検討に関する情報であり、公にすることにより、市民の間に著しい混乱を生じさせ、又は、特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすと認められるため、非公開。